

オリーブの会通信

2018年2月1日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会

〒760-0043 高松市今新町4番地20

連絡先 TEL 087-802-2568

<http://khj-olive.com/> (隔月発行移行後17号)



新しい年になり既に1か月を過ぎようとしておりますが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。立春もまじかとなりましたが、寒暖の差も著しい折、くれぐれもご自愛の程お祈り申し上げます。

さて、2017（平成29）年度も残り少なくなりましたが、「ひきこもり相談窓口業務」や「ひきこもり当事者傾聴サロン」の各事業、その他活動も着実に進展しているところです。

会員の皆様には、居場所活動や月例会参加を通して仲間との交流を図りながら、互いに支え合い、励まし合いながら前に進んでいきましょう。そして、居場所（安全基地）を拠点として行政機関や各種団体との連携（つながり）を深め、ひきこもりへの理解と支援に繋げましょう。

お知らせ

1. 「UX女子会（12月5日開催）」

31名の参加がありました。会では中身の濃いお話と交流がありましたが、終了後主催者の林 恭子代表、堀内志乃氏が当会の居場所を見学に訪れてくれました。

今後、高松で女子の居場所が出来ればとのお話もあり意義ある女子会となりました。

2. 「ひきこもり実態調査」アンケートへの協力依頼

KHJ本部が10年以上にわたり継続実施している「ひきこもり実態調査」の今年度の「調査票」の提出期日は1月末となっておりますが、すぐであればまだ間に合います。未提出の方は至急に提出をお願いします。

3. 「平成29年度第2回ひきこもりサポーターパワーアップ研修」平成30年1月21日

講師にグローバル・シッパスこうべの森下徹さん、福知山NPO法人ニュートラル町田弘樹さん、スーパーバイザーとして香川大学の竹森教授にお願いしました。

内容は、3つの事例を通して各グループで討論し実践的な議論をしました。ひきこもりの相談の中にはひきこもりに当たらないものもある。また、地域のつながりが解決の方向に大きな役割を果たしている事例も報告されました。参加者は約30名でした。

第188回月例会ご案内

日 時	2018年2月18(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場 所 (間違わない てください)	香川県社会福祉総合センター 7階 大会議室 〒760-8057 高松市番町1丁目10-35 Tel:087-835-3334
内 容	☆一部 13:30~ 会からの諸報告 13:35~ 16:30 講演 演題「ひきこもりのいのちと生活を守る」 (障害者年金・生活保護・地域づくり・行政との 連携) 講師:高知県立大学社会福祉学部社会福祉学科 大学院人間生活学研究科 教授 田中 きよむ氏
参加費	会員1家族:1,000円 会員以外:1,500円

第189回月例会ご案内

日 時	2018年3月25日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場 所 (間違わないでくだ さい)	かがわ総合リハビリテーションセンター「福祉センター」 2階第1研修室 〒761-8057 高松市田村町1114番地 Tel:087-867-7686
内 容	☆一部 13:30~会からの諸報告 13:35~15:00 『ひきこもりと精神医療』 講師 高知県立精神保健福祉センター長 医師 山崎 正雄氏 15:00~15:15 休憩

	☆二部 15:15～16:30 グループ別 話し合い
参加費	会員 1家族: 1,000 円 会員以外:1500 円

第 186 回月例会 (12 月 17 日) の概要

今回は、年の瀬の休日、寒風の中 19 名の参加を得て開催しました。

◎ 一部「この 1 年を振り返って」(秦サポーターの司会進行で 9 名の方が話された。)

○ 元当事者

人前で話をする時は緊張すると言いながら、ひきこもりを脱出した今は正規職員として働いている。そんな中で、ストレスの解消に苦慮している。また、いじめがあってもひきこもらずに社会人になっている人もいたので、そういう人の話が聞ければと思う。

○ 秦サポーター

オリーブの会と関わって 4 年になるが、その間、色々なイベントに参加した。そんな中で、ひきこもりの集まりにひきこもりでない(精神疾患か)方が含まれている実態があり、これを承知しておく必要があります。

今、自分の仕事においては、相手を気遣い、自分がひきこもっていたことを話さずに仲間として対応している。そのため、緊張することがあるが、ポパイの会に参加することでリラックスさせてもらっている。居場所は、生きづらさを抱えるひきこもり者にとって大切であり、ひきこもりを脱出した後も必要です。

○ 加藤サポーター

現在、カウンセラーとして色々な仕事をさせてもらっている。その中で、ひきこもりは環境(出会い)の運不運の差によるものでないかと思う。

サポーターとして各種団体からの声掛けでひきこもりについて話す機会がある。その際、「ひきこもりは、だれがいつなってもおかしくないという認識を持って欲しい。」と話している。

今は、ひきこもりについて相談窓口も出来、社会全体の問題と捉えて予算も付きやすくなっている。ひきこもりのゴールは、就労と考える親御さんも多いが、本人の性格や精神状態もあり、まずは地域イベントへの参加も大事にして欲しい。

1 月には、ひきこもりつながる・かながえる対話交流会が開かれるので、ひきこもりが一般社会全体で取り組むべきことを訴えていきたい。そして、交流を通してオリーブの会が発展すればと思う。今後も相談窓口のお役に立つよう活動させていただきたい。

○ K相談員

今は社会と 3 つのところに関わっている。ひきこもり当事者の親・家族ではないがオリーブの会の趣旨に賛同して入会し、ボランティアで電話相談を月 1 回させていただいている。

ひきこもりの方の実態はわからないが、何か関わることで相手を知り、互いの信頼関係が出来ると思っている。これからも相手のことを素直に理解する姿勢でやっていきたい。

○ 泉代表理事

今年も入退院を繰り返したが、そんな中、子供の態度に大きな変化（父親への気遣い）が出てきた。ひきこもりの滞在期から安定期に入った感がしている。次へのアプローチとして居場所の存在価値は大きいものがある。特に、生きづらさを抱えたひきこもり者の集まる場所が不可欠である。ひきこもり者は居場所活動を通じてエネルギーの回復に繋げて欲しい。

また、今は行政も動いており、お願いだけでなく居場所に「地活センター」を提案している。そこで、集団コミュニケーションを創り、社会へ出るための場にしたい。特に、居場所の中で本当に自分がしたいもの（自分の欲望は他人の欲望～仏の精神分析家ラカンの言葉）を見出して欲しい。

今、社会は大きく変わり難しい時期となっているが、ひきこもりは日本社会の病理現象であり、画一的な対応では解決できない。この様な時は、社会に投げかけてもダメ、自ら創って活性化し、交流しながら自分の生きていく足場にしていこう。

○ 川井顧問

居場所がひきこもり者のやすらぎの場であり心の安全地帯となっている。ひきこもり対策としてサポーター養成研修やサポーター・フォローアップ研修などに取り組んできた。いずれもボランティアであるので自主的に楽しくやることが大事である。

生きづらさを抱える人の集まりの会（女子会、ひきこもり大学）も開かれている。当事者は色々な体験を通して交流し、着実に成長している。

人は誰でも人に話す勇気を持ちましょう（会員の掲示板メッセージから）

○ T相談員

ストレスでイライラした時は別の場所で発散することも必要です。聴くというよりも寄り添うことの難しさを痛感している。

○ 平野代表理事

居場所には、今日お話しされた3名のほか5～6名でやっている。

居場所活動は出会いであり、自分が変わって行ける場でもあるので積極的に利用されたい。参加することで気付いて変わって行ける場となっている。

○ 居場所利用のKさん

傾聴サロンでは人が大切に、多くの出会いがある。居場所は、私にとって落ち着ける場所です。本当に感謝の気持ちで一杯です。



◎ 二部 グループ別話し合い

今回は、参加者が少なかったので2グループに分かれて話し合った。

お話は、当日の内容を中心としたものとなったが、すぐに解決できるという課題ばかりではなかった。ただ、色々話をする中で解決のヒント（糸口）を見出された方もいたのではないかと思います。話し合いの時間は限られていたが、夫々が想いを語ることで充実した一時でした。

第 187 回月例会（1 月 28 日）の概要



「ひきこもり つながる・かんがえる対話交流会 in 香川」

赤い羽根中央共同募金会の助成を受けて KHJ 本部が主催し、当会が共催する対話交流会を当会の月例会として位置づけ、香川県社会福祉総合センター（高松市）で開催しました。

この会の目的は、「ひきこもり当事者の社会参加と地域福祉の推進に向けた対話交流会～対話の力で何かの変化を起こす種を育む～」ことにありました。

より多くの人につながる・考えるという会の狙いを踏まえ、今回は特に行政、関係諸団体（社会福祉協議会、民生委員・児童委員など）に約 600 部のちらしを配布するなど事前広報活動に努めた。

当日の参加者は 65 名であったが、今回の事前広報活動に伴う各機関との接触を通して新しい人的なつながりを得ることができ今後の活動において協力関係の強化に期待を持つことができました。

今回の対話交流会の概略

- 1 時 間 13 時 30 分から 16 時 30 分まで
- 2 場 所 香川県社会福祉総合センター7 階第 1 中会議室
- 3 内 容

はじめに主催者から会の運営方法の説明がありました。自己紹介も①名前（ニックネーム OK）、②参加の意図、③趣味を用紙に書いて自分の前にぶら下げて会場をぐるりと回りました。そこでさっそく自己紹介があちこちで行われ、この会場にどのような人が来ているのかわかり会場の雰囲気が一挙に和やかになりました。また、話は聞くだけでも良い。個人的な話はダメ、話は簡潔に、他人の批判はだめ、などのルールが決められ討論に入りました。

6 つのテーブル①「ここに来られない人のテーブル」②「そもそもひきこもりとは何か」③「私たち（わたし）の幸せイメージ」④「女子会」⑤「フリートーク」⑥「居場所から二歩目を踏み出すには」のグループに分かれました。各部グループ約 10 人余りになり前半 45 分、後半は自由にグループを変りながら 45 分自由に話し合いをしました。

5 討 論

- ひきこもりからの「脱出」は本人が考え本人が自分で居場所など探していくことが大事。周りがパンフレットなどみせて「与える」やり方では難しい。
- 親のひきこもり感と当事者のひきこもり感には大きなズレがある。ひきこもり感は自分が決めたらよい。
- 社協活動の中で 12 年一人暮らしをしている人 35 歳のひきこもり者を発見した。当初は相手にされなかったが、何度か訪問していくうちに会ってくれるようになり、今では電話がかかってくるようになった。
- 居場所をやり続けることが大事。行こうと思ってもすぐにはいけない。行けるときに居場所をやっていなかったら残念。

- 話すだけの居場所でなく作業を取り入れたら。簡単な遊びから入れる作業、例えばゲーム、ビデオの編成など。
- 親も居場所が欲しい。

【2018年2月以降の各会等の予定】

(相談窓口・傾聴サロン)

内 容	月	日	曜	時 間	担 当
ひきこもり相談窓口 (来所相談も可) ※まずは☎ 087-802-2567 をお待ちしております - 第5土曜日は全て休みです -	2	3、10 17、24	土	9:00~16:00	泉・川井ほか
	3	3、10 17、24	土	9:00~16:00	泉・川井ほか
ひきこもり当事者傾聴サロン ※連絡先：☎ 087-802-2567 - 第1・3土曜日に行います -	2	3、17	土	13:00~16:00	サポーター登録者・平野
	3	3、17	土	13:00~16:00	サポーター登録者・平野

(理事会・運営委員会等)

内 容	月	日	曜	時 間	摘 要
第12回運営委員会	2	17	土	13:30~16:30	
第13回運営委員会	3	17	土	13:30~16:30	
第1回運営委員会(2018年度)	4	7	土	13:30~16:30	
第2回運営委員会 (同)	4	14	土	13:30~16:30	

*ポパイの会(居場所活動) 予定は、別途印刷の同封のパンフをご活用ください。

◎定例総会は4月29日(日)13:30から田村町の『かがわ総合リハビリテーションセンター』で開催予定です。今からご出席を予定してください。

以上